

V. 特記事項

1. 未来科プロジェクトの推進

本学では、建学の精神「敬・信・愛」及び「対人援助職のリーダー育成」のビジョンのもと、日本の社会課題を立ち向かい、課題解決に向けて挑戦する本学独自の特長ある事業として、平成30（2018）年度より「未来科プロジェクト」に取り組んでいる。

「未来科プロジェクト」は、本学の在学生・卒業生、教職員はもちろん、子どもたちや企業などとともに、対人援助の明るい未来を創り出すためにどう社会課題に向き合っていくかを考えていく取り組みであり、そのためのツールとして「ニッポンのしゅくだいドリル」を制作している。

「ニッポンのしゅくだいドリル」は、いま社会が向き合わなければならない様々な課題に対して、大人から子どもまでみんなで考えるきっかけをつくるために制作したもので、ドリルの問題は大学生が教員や現場で働く方々からそれぞれが抱える課題をヒアリングし、現場の生の声や実際にあった事例を基に作成している。また、全ての問題に正解がなく、「どこが課題のポイントなのか?」「解決のためにどんなアイデアがあるのか?」を当事者目線で考えを表現してもらい、周りの人と答えを照らし合わせ、議論することで自分なりの解決法を見つけ出すことを目的としている。

平成30（2018）年度～令和元（2019）年度にかけて実施したワークショップでは、本学の学生がファシリテーターとなり、「ニッポンのしゅくだいドリル」を用いて社会課題を解決するための方法を考えた。一般向けとしては「丸善ジュンク堂書店」におけるワークショップ、企業との連携としては「㈱ジズ」 「㈱LIXIL」とのワークショップを実施した他、摂津市教育委員会との連携により、摂津市内の3校の小学校（4年生対象）において日本の社会課題の解決にチャレンジするワークショップを実施した。令和2（2020）年度以降も継続して摂津市内の小学校でのワークショップや企業とのコラボレーション等を計画していたが、新型コロナウイルス感染症拡大による未曾有の情勢に突入し、全プログラムが中止となった。その後も感染症の収束は見通せず、本プロジェクトは再開時期未定のまま令和2（2020）年度～令和4（2022）年度までは活動の休止を余儀なくされたが、令和5（2023）年5月に新型コロナウイルス感染症が感染法上の5類に移行したことに伴い、「未来科プロジェクト」についても、オープンキャンパスや大学祭でのブース設置による広報活動及び摂津市内の4校の小学校（3～5年生対象）でのワークショップを再開した。

令和6（2024）年度には人間科学部に、異なる分野の専門職業人をチームとして機能させ、様々な社会課題を発見・解決するためのスキルや知識を学ぶ「社会創造学科」を開設した。PDCAサイクルを描きながら、答えのない社会課題の解決に果敢にチャレンジし、プロジェクトを通じて、社会で求められる問題解決力、コミュニケーション力、リーダーシップといった多様なヒューマンスキルを養成するという学科理念は、まさに「未来科プロジェクト」の趣旨とも合致している。

今後、「未来科プロジェクト」は本学での学科横断的な取り組みの体制を維持しつつも、この社会創造学科が中心となり学科をあげてプロジェクトの運営に携わっていくことで、地域における活動の幅をますます広げていく。